



新受験ゼミナール⑩

1級土木施工管理技士実地試験直前ゼミ開催報告

協会誌編集事務局

はじめに

令和2年度の1級土木施工管理技士実地試験が去る12月7日に実施されました。試験に臨まれた皆様には、これまでの取り組みの成果が発揮されたことと思います。

当協会では、昨年の1月から会員皆様の資格取得を支援するため「新受験ゼミナール」を開講し、2月からは特に要望が高かった1級土木施工管理技士について8回にわたり協会誌への関係記事掲載を通じて資格取得を支援してきました。

その一環として、去る11月15日には「実地試験直前ゼミ」称して、受験指導講習会のオンラインライブ配信を実施致しましたので、その実施内容等を報告します。

1 開催までの経緯

1級土木施工管理技士合格の最難関は実地試験にあり、多くの会社では受験専門学校の講習会参加への金銭的な支援や講師を招いての社内研修会の実施等を行っています。当協会でも新受験ゼミナールの一環として1級土木施工管理技士の受験指導に実績のある講師をお招きして講習会を実施することとし、建設教育研究機構理事長の大野春雄先生をお願いすることにしました。

大野先生は、建設関係会社からの依頼を受けて多くの受験指導を実施されており、また、2月号の文献解説で紹介した受験の参考書「1級土木試験講座（日本理工出版会）」を出版されるなどこの分野では著名な方ですが、協会誌に連載をした新受験ゼミナールでも試験対策を執筆して頂きました。

当初は一次試験合格発表後の8月に協会の東京事務所講習会場で100名規模の講習会を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、試験自体が12月に延期となり、また「密」となる講習会が実施できなくなりました。このため講習会をオンラインにてライブ配信する方式に変更することとし、全国の会員の皆様に協会誌10月号の紙面で申し込みを受け付けると共に、受験ゼミナール開始に当たってご協力いただいた関係会社にもご案内を行いました。

2 応募者の状況

オンラインライブ配信としたことから、東京地区に限らず全国からの参加が可能となり、10月号でのお知らせ開始以降断続的に応募があり、また、学科試験の結果が発表された11月4日以降には、本講習会受講のために新規入会者も含めて駆け込み応募も多数あり、最終的に全国の23社から約100名の応募がありました。その内訳は、北海道から九州地

区までの鉄道事業者13社（JR関連5社及び民鉄他8社）及び建設等関係会社15社でした。

3 実施内容

直前ゼミは、協会本部会議室で実施する講習会をYouTubeでオンラインライブ配信しました。あくまでも会員へのサービスであるため、事前に申し込みをされた会員の方に、オンライン講習会を配信するYouTubeのURLをお知らせするとともに、講習会で使用する教科書をダウンロードできるようにしました。

当日は午前10時から昼食休憩1時間挟んで16時までみっちり5時間にわたり行われ、経験記述から土工とコンクリートを中心に丁寧に受験指導が実施されました。なお、申込者の内、業務都合等によりリアルタイムで受講できない方のためにライブ終了後も翌16日17時まで「限定公開」しました。

講習会で使った教科書は、経験記述部門では先生の長年の指導経験から分析した記載方やポイントのわかりやすい解説とともに、土工、コンクリート工及び品質・安全管理の専門分野選択問題では過去10年の出題の傾向分析や解答・解説を中心にまとめている、いわば受験の“虎の巻”とも言えるもので、参加者には貴重な資料となったことと思います。

終わりに

令和2年の直前ゼミは、コロナ渦により図らずも全国から参加できるオンラインライブ配信方式を採用しての実施となりましたが、大変大きな反響を頂きました。

土木施工管理技士の試験制度は次年度から見直しが行われる予定です。また、業界等からは今年も引き続き1級土木技術管理技士の受験指導を望む声が高いことから、内容の深度化を図り新しくなる試験制度に対応した受験支援を継続する予定です。今回実施したオンライン講習会についても、今回の実施結果を踏まえて更に有効なものとなるようにしていきたいと考えています。楽しみにしててください。



日本鉄道建設協会誌 2021.1 053